

これから伸びる 首都圏の カイシヤ

日刊工業新聞社東京支社：編

新型コロナにも負けない
有為企業

2021秋

日刊工業新聞社

▲黒田精工株式会社

精密技術を通じて、世界の産業高度化をサポートする ——精密計測・加工のプロフェッショナル

ここに
注目!

EV 向けで世界が注目するオンリーワン技術を保有

人財育成を経営の根幹に～働きやすさと働き甲斐の最高点を目指す～

“精密化 (PRECISION)” と “生産性の向上 (PRODUCTIVITY)” を意味する「P&P」の経営理念の下、約1世紀にわたり国内外の産業高度化を牽引してきたのが黒田精工株式会社だ。1925年 (大正14年) に日本初の專業ゲージメーカーとして創業した同社は、「精密業界の老舗」として優れた精密計測技術・精密加工技術を基礎に幅広い要素技術を磨き、常に時代のニーズに応じてきた。

同社の原点とも言えるゲージとは寸法・公差の基準となるもの (言わば精密な物差し) で、近代モノづくりの原点とも言えるものである。このゲージの国産化は未だ黎明期であった日本の工業界において、その後の近代化に向けた礎となる出来事であった。高度成長期から今日に至るまでの日本の製造業を支え、その発展とともに成長してきた同社は現在、世界的に急成長している電気自動車 (EV) や半導体市場を支える基幹部品を供給し、活躍の舞台を海外

に大きく広げている。2012年以降、海外企業の買収や業務提携、合併会社の設立を積極的に行い、2020年度時点の海外売上高比率 (連結ベース) は48%に達する。

世界の先端産業を支える商品群

現在、同社の事業は駆動システム事業・金型システム事業・機工・計測システム事業の3事業部で構成されている。

駆動システム事業は、精密位置決め用の機械要素であるボールねじを主要製品とする。ボールねじとは、モーター等の回転運動を直線運動に変換する機械要素であり、半導体製造装置、産業用ロボット、工作機械、医療用ロボットなど関係する業界は多岐に渡る。現在世界的に需要が拡大している半導体関連は同社が得意とする分野であり、工場の拡充や製造ラインの自動化・スマート化等製造能力の増強にも力を入れている。

金型システム事業は精密プレス金型とそれにより生産されるモーターコアと呼ばれるモーターの基幹部品が主体となる。同社独自の技術であるFASTECシステムは、打抜き、積層、回転、組立という一連の作業工程を、プレス工程内ですべて処理することを可能にし、品質と生産性の飛躍的向上をもたらした。近年開発したGlue FASTECシステムはエネルギーロスを低減した高効率モーターコアが製造でき、EV向けのユニークな技術として国内外の多くの自動車メーカーから熱い視線が注がれる。

機工・計測システム事業は、平面研削盤をはじめとする工作機械や、祖業のゲージ製造から引き継がれている測定装置や各種計測機器など、世界のモノづくりを支える多様な製品を扱う。特殊な精密ねじゲージなど同社にしか作れない製品も少なくない。

これら3つの事業それぞれが保有する幅広い要素技術を用い、



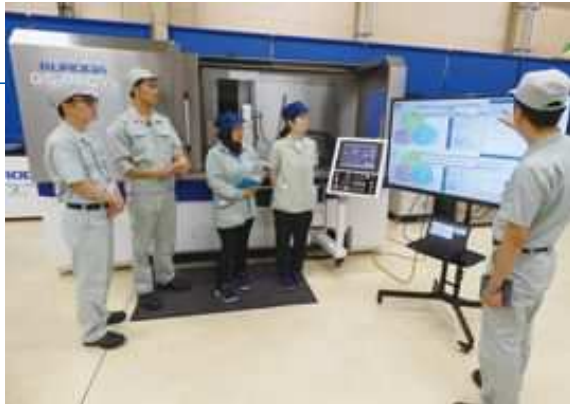
クロダのオンリーワン技術『Glue FASTEC』世界の電気自動車 (EV) メーカーが熱い視線を注ぐ



海外製の最先端手術ロボット。クロダブランドは海外メーカーからの信頼も厚い



最先端の自動化ラインを備えるかずさアカデミア工場



「精密なモノづくりは文化である」次代を担う人財育成には特に力を入れる



リモートワーク・フリーアドレス・フレックスタイム制度など、柔軟な働き方を推進している

ユーザーのニーズに的確なソリューションを提供できるのが同社の強みと言えるだろう。

黒田社長は、2025年度を目指して策定した中期経営計画「Vision 2025」の中で、駆動システム、金型システム、機工・計測システムの3部門がそれぞれのターゲット市場で世界をリードする立場になることを目標に掲げ、そのために収益力、技術力と顧客との関係の三つの強化を図ると謳っている。そのうえで、創業100年に当たる2025年度までに売上高230億円、営業利益20億円を達

成するという計画を打ち出している。

人づくりこそが「精密なモノづくり」を実現

昨今、「技術立国」や「モノづくり大国」の看板が色あせたように感じられるのが国内製造業を取り巻く状況だ。その点について黒田社長は「確かに、“そこそこ精密”のモノづくりは海外でもできるようになっている。しかし、本物の精密となると、やはり日本が強い。精密なモノづくりというのは例えば高性能な機械を購入すれ

ばできるというように一朝一夕にできるものではない」と解説する。「精密なモノづくりは文化である」とは故・黒田彰一最高顧問（現社長の父親）の言葉。匠の技を後世にバトンタッチする為に技能伝承プログラムを整え、全社員を対象に精密なモノづくりを体験できる「ものづくり道場」を開設、技能者としてのキャリアパスである「マイスター制度」を設けるなど、父の思いを引き継いだ黒田社長は、モノづくり文化を担う人づくりを経営の根幹に据えている。

わが社を語る

代表取締役社長
黒田 浩史氏



働きやすさと働き甲斐の最高点を目指す

モノづくりが好きな学生には、とても面白い会社で、お勧めです。多種多様な要素技術を蓄積しており、機械・メカトロ系をはじめ、電子・電気系やデータサイエンティストの勉強をしたような人にも興味を持って取り組める仕事がたくさん用意されています。

取引先は、世界的な一流企業が多く、若いうちからそうした会社の技術者、研究者と一緒にグローバルな環境で最先端の研究開発に取り組めるのが当社社員の醍醐味の一つです。実際、当社の製品はEVや医療用ロ

ボットをはじめとした最先端分野に関わりがあります。今後はドローンや空飛ぶ自動車など、新たな分野でも必ず当社の技術が活かせるはずですよ。

職場では働きやすさと働き甲斐の2軸を大切にしています。座標軸で言うと、二つが兼ね備わった右上・第1象限の最も高い点を目指しているところです。多様性を重視し、国籍や性別を問わず、広く門戸を開いていますので、ぜひ一度、気軽にアプローチしてみてください。

会社 DATA

所在地：川崎市幸区堀川町580-16 川崎テックセンター20階
創業・設立：1925（大正14）年1月
代表者：黒田 浩史
資本金：19億1,100万円（東証2部上場）
従業員数：連結617名（2021年3月末現在）
事業内容：駆動システム、金型システム、機工・計測システム
URL：<https://www.kuroda-precision.co.jp/>



モノづくり

生活・エンタメ

IT/ソリューション

社会インフラ

商社・サービス

建設・不動産